青野太潮先生献呈論文集

# イエスから初期キリスト教へ
## ――新約思想とその展開

編　者　日本新約学会

発行日　2019 年 9 月 13 日

ISBN978-4-86376-075-2 © 日本新約学会　<Printed in Japan>

# ルター『九月聖書』の書誌学的考察
## ――第 1 刷の本文をめぐって――

辻　　学

# A Bibliographical Study on Martin Luther's "Septembertestament": The First Printing of the Text

Manabu Tsuji

**Abstract**

There are ca. 40 extant copies of the first edition of Martin Luther's German translation of the New Testament, the so called "Septembertestament". There are, however, textual differences among these copies. In reviewing the bibliographical data of 9 copies of the Septembertestament readily accessible to the author, this paper tries to clarify (1) which copy is to be seen as the "oldest," sc. earliest printed version, and (2) how the differences between the copies came about. This textual study finally leads us to a fundamental question of textual criticism: What is "original"?

## 1. 問題の所在

マルティン・ルターによるドイツ語訳新約聖書初版（いわゆる Septembertestament。以下『九月聖書』と表記 )[1] は、1522 年 9 月にヴィッテンベルクで刊行された。発行部数は 3,000 だったと一般に推測されている。

ヴァイマル版ルター全集（WA. DB 2）によれば、現存する『九月聖書』は 39 部となっている。日本では、広島経済大学図書館が所蔵しており、これはそこに含まれていないようである（私蔵されていたのが売買にかかったと見られる）。また、ドイツで複数の図書館が『九月聖書』をインターネット経由で公開している。

ところが、公開されている『九月聖書』を相互に比べてみると、同じ初版でありながら、本文に微妙な差異があることがわかる。それはとりわけ、本文の誤りを修正した部分に現れる。すなわち、修正がなされている刷[2] となされていない刷が存在するのである。

そこで本研究では、現在日本にいて見ることができる複数の版について、問題の修正箇所がどのような読みになっているか、その異同を比較した上で、(1) どの版が最も古い、すなわち「最初のテクスト」（に近い）かを検証するとともに、(2) 同じ『九月聖書』の中で本文の異同が生じたその原因と過程を考察する。この検討は、「オリジナルの本文」とは何かという、新約本文研究にとっても根本的な問いの再考へと我々を導くことになるであろう。

## 2.『九月聖書』についての書誌的情報

『九月聖書』について論じている邦語文献の中には、第 2 版である Dezembertestament ＝『十二月聖書』との関係をめぐる誤解も見られるので、まずは基本的な情報を整理しておきたい。

## 2.1.『九月聖書』の印刷過程

『九月聖書』の印刷を引き受けたのは、ヴィッテンベルクにある Melchior Lotter d. J. [3] の印刷工場で、発行者は Christian Döring と Lucas Cranach d. Ä. であった（ただし、翻訳者も印刷者も発行者も『九月聖書』の表紙には記されていない）。出版は 1522 年 9 月 21 日である。

『九月聖書』のページ番号を見ると、全体は次のように 3 分割されていることがわかる。

- 福音書と使徒言行録（Bogen A–T = Bl. I–CVII）
- ロマ書からユダ書（Bogen a–n = Bl. I–LXXVII）
- ヨハネ黙示録（Bogen aa–ee, 枚数番号 Blattzahlen なし。ヨハネ黙示録にのみ付された 21 枚の挿絵のため、番号づけに困難をきたしたと思われる）、ロマ書序文（Bogen A = 6 枚、枚数番号なし）および最初の 4 枚（タイトル、序文、目次。2 枚目と 3 枚目に）。

これらの印刷順序は次の通りである[4]。Melchior Lotter d. J. は、5 月初めにまずマタイ福音書（Bg. A ff.）から刷り始め[5]、数週間後には別の印刷機で書簡部分の印刷にかかっている (Bg. a から n まで。新たに枚数が I から計算されている)[6]。さらに、第 3 の印刷機でヨハネ黙示録（Bg. aa – ee。頁番号なし）、タイトル部分（Titelbogen）と全体の序文、さらに「新約聖書で正しく最も価値が高い文書はどれか」（»wilchs die rechten vnd Edliſten bucher des newen teſtaments ſind«）とそのリスト、および最後に草されたロマ書序文（Bg. A）を印刷した。

このように、分割して印刷作業を行なった結果、ロマ書序文の後に 1 頁（Bl. A 6[b]）、使徒言行録の後に 1 頁（Bl. T 4）、ユダ書の後に 1 頁（Bl. n 6）空白が生じている。

Hans Weber[7] が記すところによれば、原稿は一気に印刷所へ送られたの

ではなく、少しずつ届けられた。1522 年 5 月 5 日の前に最初の部分、次いで 5 月 10 日に Bogen A、16 日に Bogen B、21 日に Bogen C が送られた。

最後に印刷されたロマ書序文のうち、2 頁目以降の 10 頁分は、組版がそのまま残されており、第 2 版で再利用されているが、それ以外は使用後に解版された。したがって、ロマ書序文については、第 1 頁のみ初版と第 2 版が異なっている[8)]。

『九月聖書』の発行部数は、一般に約 3,000 部とされているが、正確なところはわからない[9)]。

初版（＝『九月聖書』）には、正誤表が付され、8 箇所の読み替えが指示されている（後掲 394 頁の写真版参照）。インキュナブラ[10)] の時代は、多くの本が、販売前に手書きで修正をされていたが、16 世紀以降は、印刷の後で見つかった誤りを記した正誤表（Erratablätter）を販売前に付すのが一般的となった[11)]。H. Volz によれば、「誤植の多くは、印刷している間に Stehsatzkorrektur（組置き版の修正）で取り除くことができたが、後になってから、すなわち当該用紙が印刷されてしまってから発見される誤植も多く、それらはたいてい一番後ろに付加される正誤表で直す他なかった」という[12)]。『九月聖書』に添付された正誤表も、この慣習に則ったものである。

### 2.2. 第 2 版＝ Dezembertestament での修正箇所

『九月聖書』が早く売れたため、3 ヶ月後には第 2 版（＝『十二月聖書』）が発行された。この第 2 版では、全体で 574 箇所[13)] の修正が施されているが、中でもよく知られているのは、ヨハネ黙示録に付された Lucas Cranach d. Ä. の挿絵（全部で 21 枚）に加えられた変更である。初版では、17 章に付された「バビロンの娼婦」（Hure von Babylon）が三重冠（Tiara）すなわち教皇冠を被っていた。これがカトリック側はもちろん、教皇支持者以外にも不評を買ったため、第 2 版ではその冠が削られている[14)]。11 章に付された挿絵でも、二人の証人を殺す竜が初版では同じ三重冠を被っており、第 2 版ではその三重冠が削られている。

### 2.3. Nachdruck（複製版、海賊版）の流布

第 2 版（『十二月聖書』）の発行が急がれた理由の一つは、海賊版の存在であった。『九月聖書』の海賊版は、早くも第 2 版の出版と同じ頃に、バーゼルの Adam Petri で発行されている。さらにマインツでは、1524 年に Johann Schöffer が、出版社や印刷所の記載がない版を発行したが、これは「Adam Petri 版の複製版であるバーゼルの Andreas Cratander 版を原本としている」[15] という。ヴォルムスでは、Peter Schöffer（Johann Schöffer の弟）が 1524/25 年と 1529 年に『九月聖書』を複製している。複製版の中心地となったのは、アウクスブルク、ニュルンベルク、シュトラスブルク、そしてバーゼルであった[16]。1522 年にはバーゼルで 7、アウクスブルクで 3、グリンマ（Grimma）とライプツィヒ各 1、合計 12 の複製版が登場したという[17]。

## 3.『九月聖書』の書誌学的考察

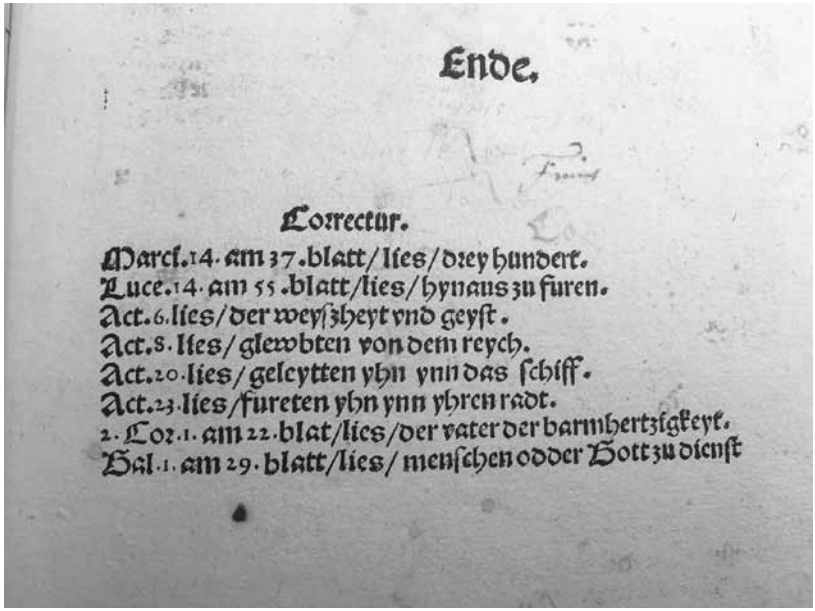
### 3.1.『九月聖書』の異なる「刷」[18]

上述したように、『九月聖書』は約 40 部が現存しているのだが、それらを相互に比較すると、本文の一致しない箇所があることがわかっている[19]。ヴァイマル版（WA. DB 6）の本文は、ベルリン州立図書館（Berliner Staatsbibliothek）Biblia Sacra Fol. 50（＝ $22^{1}$）に基づいて、1883 年の Grote 版ファクシミリ印刷を修正したもので、さらにブレスラウ市立図書館（Breslauer Stadtbibliothek; Sign: 2, S. 37）＝ $22^{1x}$ をも比較参照している[20]。

上述のように、『九月聖書』には 8 箇所の正誤表がついているのだが（次頁参照）、実は、この正誤表と一致しない本文箇所がある。それはルカ福音書 14 章 28 節で、正誤表の指示内容は、

Luce. 14. am 55. blatt/ lies/ hynaus zu furen

となっている。ところが『九月聖書』にはこの箇所を、



Ende.

Correctur.

Marci.14. am 37. blatt/lies/drey hundert.
Luce.14. am 55. blatt/lies/hynaus zu furen.
Act.6. lies/der weyſzheyt vnd geyſt.
Act.8. lies/glewbten von dem reych.
Act.20. lies/geleytten yhn ynn das ſchiff.
Act.23. lies/fureten yhn ynn yhren radt.
2. Cor.1. am 22. blat/lies/der vater der barmhertzigkeyt.
Gal.1. am 29. blatt/lies/menſchen odder Gott zu dienſt

Septembertestament に付された正誤表。広島経済大学所蔵本。（転載許諾済）

vnd vber ſchlegt die koſt, ab ers habe hyn zu furen としている刷と、vnd vber ſchlegt die koſt, ab ers habe hynaus zu furen としている刷が存在するのである[21)]。

この異同については、ヴァイマル版の編集者もすでに気づいており[22)]、当該箇所に次のような注記がある。

WA. DB 6. 281: hyn (*Druckf.*) im Text $22^{1}$ (am Ende korrigiert) hynaus $22^{1x}$

他にも、正誤表では指示されていないが、刷による違いが見られる箇所がある。

① 『九月聖書』全体の前書き（Vorrhede）2 頁第 3 段落 5 行目では、

“geſundigt” を “geſnndigt” と誤記している刷と、正しく “geſundigt” と綴っている刷とが存在する。

② マタイ福音書 4 章 21 節「彼らが網を繕っていること」を、“das ſie flickten yhre netze” と書いている刷と、定形動詞を後置して “das ſie yhre netze flickten” と綴っている刷とがある。

いずれの場合も、前者（$22^{1}$ の読み）が後者（$22^{1x}$ の読み）に修正（ないし改変）されたと考えられる[23)]。

ルカ福音書 14 章 28 節も含めたこれらの異同は、刷の新旧を見分けるのに役立つだろうか。とりあえず、日本にいて参照できる複数の刷にあたって確かめてみよう。

今回参照したのは、

- ハレ所蔵版の再版（Leipziger Edition）[24)]
- ヴュルテンベルク州立図書館（Württembergische Landesbibliothek）所蔵版[25)]
- バイエルン州立図書館（Bayerische Staatsbibliothek）所蔵版 (1): Res/2 B.g.luth. 8
- 同 (2): Coburg, Landesbibliothek – Cas A 1142[26)]
- W. Scherer 編複製版（Deutsche Drucke älterer Zeit, Berlin: Grote, 1883; Faksimile, FinnsFund, 2010[27)]）
- Kawerau/Reichert 版（1918）＝ Neudruck (cf. WA. DB 6, XLII）
- 広島経済大学図書館所蔵版

＊ Berliner Staatsbibliothek Biblia sacra Fol. 50 (= $22^{1}$) と Breslauer Stadtbibliothek 2. S. 37 (= $22^{1X}$) は直接参照出来なかったが、これらは Wikisource “Das Newe Testament Deutzsch” で確認できる[28)]。

## 3.2. 問題の箇所の異同[29)]

| | （序文） | （マタ 4:21） | （ルカ 14:28） |
|---|---|---|---|
| Berliner (22[1]) | geſnndigt | das ſie flickten yhre netze | hyn zu furen |
| Breslauer (22[1x]) | geſundigt | das ſie yhre netze flickten | hynaus zu furen |
| Leipziger | geſundigt | das ſie yhre netze flickten | hynaus zu furen |
| Württembergisch | geſundigt | das ſie yhre netze flickten | hynaus zu furen |
| Bayerisch (1) | geſundigt | das ſie flickten yhre netze | hynaus zu furen |
| Bayerisch (2) | geſundigt | das ſie yhre netze flickten | hyn zu furen |
| FinnsFund | geſnndigt | das ſie flickten yhre netze | hynaus zu furen |
| Kawerau/Reichert | geſnndigt | das ſie yhre netze flickten | hyaus zu furen |
| 広島経済大学 | geſundigt | das ſie yhre netze flickten | hyn zu furen |

この比較表からわかるのは、以下の事柄である。

⑴ いずれも訂正前の形を保っているのは、Berliner (22[1])。一方、いずれも訂正されているのは Breslauer (22[1x])、Leipziger、Württembergisch。

⑵ Bayerisch (1) は序文とルカ福音書 14 章 28 節が訂正されている。Kawerau/Reichert 版は序文だけ訂正されていない。FinnsFund 版はルカ福音書 14 章 28 節だけ訂正されている。Bayerisch (2) および広島経済大学版はルカ福音書 14 章 28 節だけ訂正されていない。このように、現存する刷は訂正の仕方がばらばらで、変更の跡を系統立てることも難しい。

## 3.3.『九月聖書』のオリジナル？（結論的考察）

このように、同じ『九月聖書』であっても、細部を比較すると、訂正の有無が刷によって異なっており、「第 1 刷」の中に本文の異同が存在することがわかる。

当時の印刷方法から考えると、一気に何千部もの印刷を行えたはずはなく、作業はしばしば中断したはずである[30)]。その間に誤植が訂正されたり（序文およびルカ 14:28 の変更はこれに当たる）、あるいは（おそらくルター自身による）変更が加えられたりした（マタ 4:21 は語順の問題なので、おそらくこのケースに該当する）ことは十分考えられる。しかし、訂正前に刷られたものも製本の際に用いられたのであろう。このあたりは、印刷から製本へ至る手順がはっきりしないため、早く刷られたものが早く製本されたと決めてかかるわけにもいかず、解明が難しい。

上掲 3 箇所から判断する限りでは、一番「古い」のは Berliner (22[1]) だが、ルターがこの「刷」を最終的に校正した（上で正誤表を付した）のかどうかは定かでない。少なくとも、ルカ福音書 14 章 28 節が直されていない「刷」＝ Berliner (22[1])、Bayerisch (2)、広島経済大学版（のいずれかと同じ刷）をルターは見た（からこそ、正誤表にその指示を加えた）のだと考えられる[31)]。

いずれにせよ、誤植が未修正の刷りと修正済の刷りがあり、また（おそらく）ルター自身が語順変更を施す前の刷りと後の刷りがあるという事実からして、『九月聖書』の「オリジナル」をどこに見るかは非常に判断が難しい。この困難は、手書き写本の場合でも印刷本の場合でも同様に存在するもので、「オリジナル」とは何かという問題に関わる[32)]。『九月聖書』のように、印刷過程で「本文」に異同が生じた場合、しかもそれが、作者（この場合はルター）の意思によって生じたものであれば、どれを「オリジナル」と考えるべきかは、容易に決めがたい。とりわけ、単純な誤植ではなく、正誤を一概に言えない（マタ 4:21 のような）ケースだと、判断は難しくなる。

類似の問題は、新約本文の再構成にも当てはまる。手書き写本として伝承された新約本文の場合は、最初に著者が 1 部だけ作ったものが「オリジナル」だという前提で長らく考えられてきたわけだが、近年の新約本文研究においては、仮説的に再構成される「最初のテクスト」（Ausgangstext, initial text）は必ずしも、「著者のテクスト」（authorial text）と同一とは限らない

という認識が浸透しつつある。それは、「著者のテクスト」が編集されたものかもしれないし、「著者のテクスト」との関係がはっきり定められない、本文伝承の「祖型」（archetype）に過ぎない場合もあるというのである[33)]。また、著者自身が「最初のテクスト」を複数部作成し、その中で本文が（著者が意図的に変更を加えた結果）相違するという場合もありえる。その場合は、異なる本文を有する「最初のテクスト」が存在することになる[34)]。ルターが施した正誤表や、正誤表から漏れた異同の問題は、「最初のテクスト」をどう考えるべきかという問いが、印刷本であれ手書き写本であれ同様に存在している事実を我々に示しているのである。

# 注

1） これは新約聖書のみの翻訳なので、Septemberbibel という（ドイツ語文献でも散見される）呼称は正確でない。しかし日本語では『九月聖書』が通称のようなので、本稿でもこれに従う。
2）「刷」という表現については後掲注 18 を参照。
3） Lotter は Lotther と綴られることもある。
4） H. Volz, “Aus der Wittenberger Druckpraxis der Lutherbibel (1522/46),” *Gutenberg Jahrbuch* 36 (1961): 142–155, hier 145.
5） WA Briefe Bd. 2, 524,5 (»gustum nouae bibliae nostrae«).
6） WA Briefe Bd. 2, 552,10f. および 553 Anm. 2.
7） H. Weber, “Zu Luthers September- und Dezembertestament,“ *ZKG* 33 (1912): 399–439.
8） Weber, “September- und Dezembertestament,” 411 に異同が示されている。
9） A. Wittenberg, “Probleme mit gekrönten Häuptern: Martin Luthers „Dezembertestament“ von 1522,” http://blog.sbb.berlin/probleme-mit-gekroenten-haeuptern-martin-luthers-dezembertestament-von-1522/ (2018. 6. 16 確認). *Martin Luther Das Neue Testament Deutsch Wittenberg 1522 »Septembertestament«* (Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 1994) に付された、Ingetraut Ludolphy の解説（4 頁）によれば、3,000 部に達したのかどうかは定かではない。なお、徳善義和『ルター訳ドイツ語聖書　ガラテヤ人への手紙』（日本聖書協会、2017 年）の「解説」は「二千部発行」としているが（23 頁）、この数字を他に挙げているのは、H. Volz, *Bibel und Bibeldruck in Deutschland im 15. und 16. Jahrhundert* (Kleiner Druck der Gutenberg-Gesellschaft 70; Mainz 1960), 51（「ヴィッテンベルクで製作された聖書は 16 世紀半ばまでで 14 版以上、それぞれおよそ 2,000 部」）くらいである（ただし Volz も『九月聖書』については、約 3,000 部としている。idem, *Hundert Jahre Wittenberger Bibeldruck: 1522–1626* [Göttingen: Ludwig Häntzschel, 1954], 17）。また徳善は、『九月聖書』と『十二月聖書』の「両者を「9 月聖書」と総称するようである」（22 頁）と記しているが、これは徳善の誤解であって、両者ははっきりと区別されている。
10）「ヨーロッパで 15 世紀後半に刊行された初期の活字本。揺籃期本」（『デジタル大辞泉』）。
11）J. Beyer, “Errata und Corrigenda,” *Wolfenbütteler Notizen zur Buchgeschichte* 37 (2012): 27–39, hier 27.
12）Volz, “Druckpraxis,” 144.

13）H. Weber, “Zu Luthers September- und Dezembertestament,” *ZKG* 33 (1912): 399–439, hier 412 によれば、誤記の修正 24 箇所、単語の変更 68 箇所、語順の変更 296 箇所、文体的・統語論的観点の変更 186 箇所で合計 574 箇所。Ludolphy, p. 1; H. Widmann, “Luthers erste deutsche Bibelübersetzung: das September-Testament von 1522,” *BPfKG* 40 (1973): 233–256, hier 237 も 574 箇所とする。一方、576 箇所とするのは Qumran & Bibelausstellung (https://www.bibelausstellung.de/home/navi1072_1688_1522-das-septembertestament 2018 年 6 月 16 日確認)。G. Roethe, “Luthers Septemberbibel,” *Luther- Jahrbuch* 5 (1923): 1–21, hier 4 は “ein halbes Tausend ernstlicher Besserungen” と述べるに留まっている。徳善義和「『聖書のみ』に生かされる」(『信徒の友』2017 年 9 月号、20–23 頁)、23 頁は第 2 版について、「巻末に 10 項目ほどの誤植訂正を加えた」ものとしているが、まったくの誤りである上、「10 箇所ほどの誤植訂正」とは、初版に付された正誤表（実際には 8 箇所）を誤解したものと考えられることからして（第 2 版にはそのような正誤表はない)、徳善は初版と第 2 版の実物をよく確認しないまま、両者を混同しているようである。

14）第 2 版の所有者の中には、教皇批判の姿勢から、その三重冠を手書きで書き足した者もいた（ヴュルテンベルク州立図書館所蔵の『十二月聖書』を参照)。

15）Widmann, “Bibelübersetzung,” 238.

16）Nachdruck についての情報は、Widmann, “Bibelübersetzung,” 238–239 による。

17）H. Reinitzer, *Biblia deutsch. Luthers Bibelübersetzung und ihre Tradition* (Wolfenbühl: Herzog August Bibliothek, 1983), 114–116.

18）同じ初版の中での問題なので、本来は「部」（Exemplar）と称するべきだが、わかりにくいので「刷」とした。

19）O. Albrecht, “Luthers Übersetzung des Neuen Testaments. Historisch-theologische Einleitung,” WA. DB 6, XXIX–XCVI: XLII.

20）Albrecht, XLII. なおこの本文は、Wikisource: Das Newe Testament Deutzsch でも参照可能。

21）下線は辻による。参考までに、ルター訳の最近の改訂版では次のようになっている。»und überschlägt die Kosten, ob er genug habe, um es auszuführen« (Lutherübersetzung 1984); »und überschlägt die Kosten, ob er genug habe, um es zu Ende zu führen« (2017).

22）Vorwort (K. Drescher) S. XLII: »Da sich herausstellte, daß die vorhandenen Exemplare des Septembertestaments (vgl. Pietsch, a. a. O. S. 204f.) in Einzelheiten nicht genau übereinstimmten [...] wählten wir zur kontrollierenden Vergleichung noch das der Breslauer Stadtbibliothek gehörende, 2. S. 37. signierte Exemplar, von uns $22^{1x}$ benannt, um so möglichst zu der echtesten Form des Urdrucks vorzudringen.« WA, DB 6 では、$22^{1}$ = Berlin Biblia sacra Fol. 50 が底版（Hauptexemplar）とし

て用いられている。

23）②では、副文における定動詞の後置が問題となっているが、「動詞の後置（副文において動詞を文末におくこと）という規則は確かにドイツ語の最古の文献にも見出されはするけれども、実際は初期新高ドイツ語期〔辻注：1350 ～ 1650 年の時期〕に至ってようやく書き言葉で定着し 18 世紀の文法家によって規範化されたものである」（河崎靖「ルターと初期新高ドイツ語」[『ドイツ文學研究』52 号、京都大學教養部ドイツ語研究室、2007 年、85–104 頁]、93 頁）。なお河崎は、ルターが定型後置へと移行している例として、まずヨハネ 15:19 を（箇所を明記せずに）挙げているが、定型を後置しない形（“die weyl aber yhr nicht seyt von der welt”）から後置する形（“die weyl yhr aber nicht võ der welt seyt”）への移行は、『九月聖書』（＝初版）と『十二月聖書』（＝第 2 版）との間ですでに生じている（同様の例は他の箇所にも見られる。Weber, “September- und Dezembertestament,” 420 参照）。須澤通・井出万秀『ドイツ語史』郁文堂、2009 年、179 頁も、14、15 世紀のドイツ語に見られる現象として、副文での定動詞後置を指摘している。したがってこの箇所でも、定動詞後置の形へと修正されたと見るのが適切である。

24）Martin Luther Septembertestament, 1522. Neudruck der im Besitz der Universitäts- und Landesbibliothek Halle/Saale befindlichen Originalausgabe (Sign. Fa 4fol.). Die Blätter 2, XIII (Bogen C), XXXI v (Bogen F), XLVII v (Bogen H) und die unpaginierten Blätter 3 (iii) und 4 r des Bogens aa wurden dem Exemplar des Evangelischen Predigerseminars Wittenberg entnommen (Sign. S 7/418). Begleittext von Ingertraus Ludophy, Edition Leipzig, 1972, 3 Aufl. 1982.

25）http://www.deutschestextarchiv.de/book/show/luther_septembertestament_1522（2018 年 6 月 18 日確認）

26）(1) (2) ともに https://www.digitale-sammlungen.de/index.html?c=suchen&ab=&kl=&l=de（2018 年 6 月 23 日確認。PDF ダウンロード可）。

27）http://archive.org/details/DasNeueTestamentDeutzsch1522（2018 年 6 月 23 日確認）

28）https://de.wikisource.org/wiki/Das_Newe_Testament_Deutzsch（2018 年 6 月 23 日確認）

29）前述したように、$22^{1}$ と $22^{1x}$ は、直接参照できなかったので、Wikisource による。

30）「印刷機を稼働させて必要な部数を刷るには、通常二名の印刷工が必要だった。ひとりが、組版に押しつける用紙を枠の中に固定する。その間にもうひとりは、組版の上に均等にインクをのせてゆく。こうしておいて、台座を印刷機の下へすべらせ、印刷工が回転レバーを回し、インクの乗った活字の上に紙を押しつけるのである。フォリオ判の左右ページにそれぞれ一回ずつ、合計二回のプレス作業が必要だった」（A. ペティグリー『印刷という革命：ルネサンスの本と日常生活』桑木野

幸司訳、白水社、2015 年、51–52 頁)。

31) ルカ 14:28 が直されている刷りが存在するということは、ルター以外の誰かが印刷過程の中でその修正を指示していた（がルターはそのことを知らなかった？）とも考えられる。

32) Vorrhede における誤植をルターが見逃したのだとすれば、Berliner (221) がルターの校正した刷り（に一番近い）ということになるが、そうでなければ、Bayerisch (2) ＝広島経済大学版の刷りをルターは見たのだと考えられる。

33) ドイツ・ミュンスターの新約本文学研究所（Institut für neutestamentliche Textforschung）を中心に展開されている分析方法、Coherence-Based Genealogical Method (CBGM) において示されているこの考え方については、前川裕「本文批評」（淺野淳博ほか『新約聖書解釈の手引き』日本キリスト教団出版局、2016 年、20–53 頁)、38 頁を参照。

34) 同種のことを、田川建三『新約聖書　訳と註 6　公同書簡／ヘブライ書』（作品社、2015 年)、525–527 頁が七十人訳について述べているが、新約聖書についても事情は同じであろう。